

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	原口 碧 【比較社会文化学専攻 平成20年度生】	<p>本論文は、15世紀ヴァロワ朝ブルゴーニュ家とアンジュー家を対象に、政治・外交上で対峙したイスラム世界をはじめとする「東方」の異教世界が、宮廷文化においてどのように表象されたのかを比較・検討したものである。第1部では、東方に対するイメージ形成に寄与した情報や文物について、旅行記・回想録・会計簿等の記録や写本挿絵等の図像から明らかにし、第2部では、祝宴・武芸試合・聖史劇等の宮廷祝祭において東方がいかに表象されたかを、特に服飾や色彩の表現を中心に分析し、両宮廷にわたる東方の政治・文化的意味を考察している。</p> <p>第1回審査委員会では、史料および先行研究の収集が十分になされ、一定の成果をあげていること、研究の視点に独自性のあることが評価されたが、問題設定とそれを受けた結論が明確でないこと、また史料の読みの不十分な点があることなど不備が指摘され、修正が求められた。また東方への政治的立場がアンジュー家とブルゴーニュ家とでは異なるがゆえに、両家において東方の意味とその表象が異なるという対比を主張する論旨として有機的に各章を結びつける構成が求められた。</p> <p>第2回審査委員会では、概ね不備が改善され、図像史料や歴史事象の説明の補足により主旨がより明確になったことが認められたが、なお結論が序章を受けた明快なかたちになっていない点、また歴史学上のことばの使い方や訳語において再考すべき点のあることが指摘され、修正が求められた。</p> <p>申請者はこれらについて再考、修正した上で公開発表会に臨み、史料を提示しながら論旨を明快に説明し、参加者からの多様な質問には丁寧に応答した。最終審査委員会において、本論文が博士（人文科学）、Ph.D.in Fashion History and Theory に値するものと判断された。</p>
論文題目	15世紀フランス王国の宮廷文化における 「東方」の表象 ―ヴァロワ朝ブルゴーニュ家と アンジュー家を中心に―	
審査委員	(主査) 教授 徳井 淑子	
	教授 安成 英樹	
	教授 新井 由紀夫	
	教授 宮内 貴久	
インターネット 公表	首都大学東京 教授 河原 温	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否） ○ 「否」の場合の理由 <ul style="list-style-type: none"> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある <input checked="" type="radio"/>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	